

今週（11月15日から11月19日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、無担保コールO/N物は、地銀を中心に調達ニーズが強い展開が継続した。積み最終日である15日は、前営業日が3日積みにあたったことで、調整が難しかったこともあり、着地に向けた調整の駆け込み調達から地銀・証券業態を中心に取り上がる動きが見られ、加重平均レートが▲0.03%まで上昇した。新積み期となる16日以降は、基準比率が9.0%（前積み期間：13.0%）に低下したことから運用ニーズの増加が予想されたものの、引き続き地銀の調達ニーズが堅調なこともあり、レート水準の大幅な低下には至らなかった。16日以降は▲0.03%台半ばから後半での推移となった。ターム物はショートターム物で▲0.04～▲0.001%の出合いが見られた。日銀当座預金残高は、各種の金融調節や財政受け払いを受け、530兆円台後半で推移した。

17日には3市場合同BCP訓練の一環として、固定金利方式による全店共通担保資金供給オペ(O/N物)が1,000億円オファーされ、55億円の落札結果となった。

また、16日に行われた通常会合において「地域金融強化のための特別当座預金制度の見直し」が行われ、特別付利対象金額の上限が見直された。これにより、適用される金額の上限が引き下げられることとなった。なお、経過措置として、2022年3月積み期間までは2021年10月積み期間の対象金額が適用される。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、新積み期に入ったことで、▲0.105～▲0.09%出合いとレートが低下した。15～17日のT/Nは▲0.10～▲0.09%と狭いレンジで推移した。18日のT/Nは▲0.105～▲0.09%の出合いとレートをやや切り下げたものの、19日は短国3M物の入札が実施されたこともあって▲0.10%出合いとなった。

SCについては、2y418～430、5y140～149、10y349～364、20y174～178、30y70～72、40y13～14 などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、3M物の発行減額が引き続き意識される中、堅調な地合いが継続した。

16日に実施された短国買入オペは、前回と同額(1,000億円)オファーされ、やや弱めの結果となった。

18日に実施された1Y物の入札は、しっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

19日に実施された3M物の入札は、強い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではショートカバーの動きも見られ、強含んで推移した。

●CP市場

CP市場は、週初の件数が少なく閑散な地合いであったものの、後半にかけては、大型発行を含めて案件が増加した。いわゆる「5・10日」である20日が週末に当たることから、発行日とその前後に分散する形で17日と18日の入札件数が増え、鉄鋼・食品・卸売・陸運等からの大型発行も目を引いた。発行総残高は、18日時点で約24兆8,000億円であった。週後半にかけて、発行超の日が続いており、25兆円に到達する見込みとなっている。発行レートは、希少銘柄で引き合いが強く、低位横ばいで推移した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/15 (月)	29,776.80	0.064	113.98	△ 0.030	△ 0.100	5,379,800
11/16 (火)	29,808.12	0.070	114.19	△ 0.037	△ 0.100	5,386,800
11/17 (水)	29,688.33	0.070	114.85	△ 0.037	△ 0.100	5,356,900
11/18 (木)	29,598.66	0.080	114.17	△ 0.038	△ 0.102	5,367,100
11/19 (金)	29,745.87	0.075	114.33	△ 0.037	△ 0.105	5,359,400

## 来週（11月22日から11月26日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
11/22 (月)		流動性供給 4,000億円 11/24発行		10月の米中古住宅販売
11/23 (火)	勤労感謝の日			
11/24 (水)		TB6M 34,500億円 11/25発行		7-9月期の米GDP改定値 10月の米新築一戸建て販売件数 10月の米耐久財新規受注 10月の米個人所得・消費支出
11/25 (木)	月例経済報告 (内閣府) 10月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 9月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	40Y 6,000億円 11/26発行	交付税借入 11,000億円 12/3借入	New York祝日(Thanksgiving Day)
11/26 (金)	11月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,000億円 11/29発行		

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/22 (月)	▲ 800	▲ 7,500	▲ 8,300	CP買入	▲ 600		▲ 600	▲ 8,900	TB3M発行▲43000償還50000 TB1Y発行▲35000償還12400 変動15Y償還6000 エネルギー対策借入▲6500期日6500
11/23 (火)	勤労感謝の日								
11/24 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000	社債買入 全店共通	▲ 2,500	800	▲ 1,700	▲ 6,700	流動性供給▲4000
11/25 (木)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	TB6M発行▲34500償還28300 国有林野借入▲830償還700
11/26 (金)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000	新型コロナオペ	▲ 55,500		▲ 55,500	▲ 62,500	40Y発行▲6000
週間合計	▲ 2,800	▲ 21,500	▲ 24,300	—	▲ 58,600	800	▲ 57,800	▲ 82,100	

11/22は日銀予想、11/24以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期序盤のため大きな変化は無いと見られ、引き続き地銀の調達ニーズが強めの地合いが予想される。レポ市場は、GC T/Nは、▲0.105～▲0.09%程度と横ばい圏での推移が予想される。短国市場は、24日に6M物の入札、26日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、25日に実施が予想される短国買入オペのオファー額、実施の有無にも注目したい。CP市場は、25日にCP等買入オペがオファー額5,000億円で予定されている。銘柄入れ替えニーズの強さがどの程度であるのかに注目が集まる。

主要なイベントは、海外では24日に7-9月期の米GDP改定値が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入